

キャッチボール屋 (2005)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 Color

時間 105分

初公開日 2006/10/21

公開情報 ビターズ・エンド

【キャッチコピー】

10分百円、
のんびり一休みしていきませんか？

たくさんの出会いと明日への一歩がつまったちょっといいお話。

【解説】

ひよんなことから10分100円でキャッチボールをする“キャッチボール屋”となった主人公と、人生の岐路に立ち、それぞれに悩みを抱える客たちとのつかの間の交流をやさしく見つめる異色ドラマ。北野作品などの助監督を務めてきた大崎章監督の長編デビュー作。主演は「殺し屋1」「ヴァイブレータ」の大森南朋。

ある日突然会社をリストラされ田舎に帰ってきた青年、大山タカシ。高校時代の野球部仲間と再会し、飲み過ぎて酔っ払ったタカシはそのまま終電で東京に舞い戻ってしまう。公園のベンチで目を覚ましたタカシは、怪しげな中年男に声をかけられる。男はこの公園で、10分100円でキャッチボールの相手をする“キャッチボール屋”なる商売をしていた。男はタカシに店番を頼むと、どこへともなく消えてしまう。訳も分からないまま“キャッチボール屋”を引き継いでしまったタカシのもとには、様々な客が次々とやって来るのだった…。

【クレジット】

監督	大崎章	
プロデューサー	定井勇二	
	磯見俊裕	
脚本	足立紳	
撮影	猪本雅三	
美術	松尾文子	
編集	宮島竜治	
音楽	SAKEROCK	SAKEROCK
照明	松隈信一	
録音	白取貢	
出演	大森南朋	大山タカシ
	キタキマユ	OL
	寺島進	坂本・サングラスの男
	松重豊	後藤
	光石研	帽子の男
	水橋研二	借金取り
	内田春菊	売店のおばさん

庵野秀明	先代キャッチボール屋	
三浦誠己	山田	
康すおん	草野球の監督	
峰岸徹	監督	
キム・ホジョン	東南アジア系の女	(特別出演)